

やさしい気持ちで

「どうぞ」

小二

わたしは、お母さんと目
しやさんに行つたときのこと
です。その日のまちあいしつ
は、とてもこんでいましたが、
わたしとお母さんは、たまたま
ますわることができたので、たま
すわつておしゃべりをしてい
ました。まことに、たまたま
ました。

「おじいさん、歩くのがたいへんそうだな。あいているせきがないけど、だいじょうぶかな。」と心ぱいになりました。そのとき、すこし前に、家ぞくと電車にのつてお出かけしたときのことを思い出しました。それは、とてもこんでいた車内で、男の人が、きゅうに立ち上がつて近くにいたおじいさんにせきをゆずつていいました。わたしは、びつくりしましたが、「かっこいい」といってみたが、わたしも、やつてみました。わたしは、「かっこいい」といいました。

な」と思いました。お母さんも、

「あなたならできるよ。こんど、同じような場めんがあつたら、やつてごらん。」

と言つてくれました。わたしは、「ぜつたいやるぞー。」と心にきめたことを思い出したのです。「あのときの男の人のようには、できるかな。」と思ひながら、わたしが、まちあいしつに来たおじいさんとのろに行つてみました。むねがどきどきして、何て声をかけようか、ことばがなかなか出でました。

「このせき、どうぞ。」と言つてみました。すると、おじいさんが、「ありがとう。」ととてもうれしそうな声で、答えてくれました。わたしは、まだ、どきどきしていましたが、おじいさんのえがおが見られ、むねのおくがあたたかくなつてくるのをかんじました。おじいさんのが、おが見られた。「せきをゆずれてよかつた。あのときの電車の男の人と同じようにできた。」ととて

もうれしかつたです。お母さんも、「あの日と同じようでできましたね。すごい！」とほめてくれて、もつとうれしくなりました。

そのあと、お母さんが、わざとをおしえてくれました。きがたしが小さかつたときのできごとをおしえてくれました。わたしは、本当に本当にたいへんのつていたバスがぎゅうぎゅうで、本当に本当にたいへんもつたときがあつたそつも、たくさんもつていでん。

わたしは、みんなどつたときがあつたそつも、たくさんもつていでん。

ちやいけなくて、本当につらかったときには、親切な人がせきをゆずつてくれて、心からありました。わたくしたちのまわりには、いろいろな人がいます。体がいろいろな思いをつれていり、小さい赤ふじゆうだつたり、たいへんなんがおたがいを思つて、みんなどつたときがあつたそつも、たくさんもつていでん。

あわせになれるけれど、みんなどつたときがあつたそつも、たくさんもつていでん。

あわせになれるけれど、みんなどつたときがあつたそつも、たくさんもつていでん。

い 気 が と か こ も し い ち わ
ま も つ け ま ゃ ん ち ど し た も た
す ち の た や が つ き ど 親 切 も 、
。 に え い で い し ま に こ ま つ
な み で す い し ま に で き て
れ ん が お 人 い ま し た た
る な が が た い が ち た の い
と い し く 切 い た を こ で
い あ あ さ と あ ら も か 、 人
な わ せ ん さ り あ ら 声 れ か
と 思 な 広 が を も つ て ら じ
、